

東峰村地域公共交通計画の概要

1 計画策定の背景と目的

本村においては、JR 日田彦山線、西鉄バスを公共交通として利用できるほか、タクシーを運行しており、タクシーチケット（タクシー助成事業として高齢者、運転免許証返納者、障害者等を対象に配布）による利用が可能となっています。なお、2017年7月の九州北部豪雨によって不通となっていたJR 日田彦山線については、2023年8月末よりBRT（バス高速輸送システム）として運行が開始されることが決定しています。

このような中で、地域住民の暮らしやすさ向上や、観光客の移動利便性確保のため、BRT 駅舎を起点とした2次交通（BRT 駅舎と村内各地をつなぐ公共交通）の整備が今後の課題となっています。このため、村内の地域交通を持続的に支える運営体制の構築と、2次交通の整備をはじめとした地域交通の様々な課題解決を目的とし、令和5年3月に「東峰村地域公共交通計画」を策定しました。

東峰村地域公共交通計画



2 計画の基本方針

本村の現状や将来像、その他の関連計画の内容等を踏まえて、次の4つの基本方針を設定し、それぞれの考え方について整理しました。

■ 基本方針Ⅰ すべての人にとって使いやすい地域交通の形成

すべての村民にとって利用しやすい地域交通の形成を目指す。また、BRT 開通を見据え、村外からの観光客にとっても使いやすい形で **BRT を起点とした二次アクセス**を整備する。

■ 基本方針Ⅱ 地域の未来を守る公共交通体制の構築

人材不足や利用者の減少等、公共交通を取りまく厳しい環境を打開し、**本村の地域交通を持続可能なものにするための体制**を構築する。

■ 基本方針Ⅲ デジタル化の機運醸成に向けた新しい地域交通のしくみづくり

AI を搭載した運行管理システムの導入による交通サービスの利便性及び効率性向上や、MaaS による効果的な交通情報、観光情報の発信等、デジタル化を積極的に推進する。また、地域住民が新しいサービスに慣れ親しみやすい環境を整え、**デジタル化の機運醸成**につなげる。

■ 基本方針Ⅳ 地域のにぎわい創出につながる BRT の活用と公共交通の取組み推進

九州初となる BRT を本村の観光資源として捉え、新しいサービスや新商品の開発を行う。また、貨客混載等の取組みにより普段公共交通を利用しない住民が公共交通に触れる機会を創出し、**公共交通を起点とした地域のにぎわい創出**につなげる。

3 計画の区域と期間

本計画の区域は「**本村全域**」、期間は「**令和5年度から令和9年度までの5年間**」としています。

4 計画の目標

本計画の「4つの基本方針」を踏まえて、計画の目標を次の通り設定しました。

■ 基本方針Ⅰ すべての人にとって使いやすい地域交通の形成

- 目標1 すべての人々が利用しやすい地域交通の整備
- 目標2 地域交通に対する満足度の向上

■ 基本方針Ⅱ 地域の未来を守る公共交通体制の構築

- 目標1 地域交通をマネジメントする組織の構築と育成
- 目標2 地域交通の理解度向上

■ 基本方針Ⅲ デジタル化の機運醸成に向けた新しい地域交通のしくみづくり

- 目標1 地域住民のデジタルリテラシー向上
- 目標2 デジタル化の機運醸成

■ 基本方針Ⅳ 地域のにぎわい創出につながる BRT の活用と公共交通の取組み推進

- 目標1 地域住民を主体とした交通、観光に係る取組み推進
- 目標2 BRT を観光資源と捉えた観光振興の推進

将来像の実現

美しい山里を継承し 豊かな暮らしを創造する 幸せな村



5 目標を達成するための事業

「4 計画の目標」に掲げた目標を実現するため、令和5年度から順次、次の事業を検討及び実施していきます。

基本方針Ⅰ すべての人にとって使いやすい地域交通の形成

事業① 村内路線（乗合タクシー）の導入

- 村内での乗降が可能な乗合タクシーを導入する。利用者の予約に応じ、柔軟な経路、ダイヤで運行する。
- 自家用有償旅客運送の制度活用によりドライバーを確保する。
- 柔軟な経路での運行かつ利用当日の予約も可能とし、高齢者や観光客を含め全ての人にとって利便性の高いサービスとする。
- EVバスや水素バス等、環境負荷の少ない車両の導入も検討する。

乗合タクシーの実証実験



事業② 幹線路線（路線バス）の見直し

- 村内路線（乗合タクシー）の導入を踏まえ、効率と利便性のバランスがとれた運行経路について検討する。
- 現行路線が最適な運行であると判断された場合においても、運行便数や運行ダイヤについて改善を検討する。

事業③ 自家用有償旅客運送の制度を活用した地域交通の運行

- 自家用有償旅客運送^{※1}を活用し、広く人材を確保することで、安定した地域交通の運行を行う。いずみ館の送迎車両やドライバーについても、地域交通の重要な輸送資源、人材資源として有効に活用する。

※1 自家用有償旅客運送とは…交通空白地（交通の便が悪い地域）の解消のため、市町村やNPO法人等が自家用車を用いて有償での運送を行うこと。

基本方針Ⅱ 地域の未来を守る公共交通体制の構築

事業④ 村を主体とする自家用有償旅客運送の体制構築

- 村を主体として自家用有償旅客運送を導入し、村内路線（乗合タクシー）を運行する。
- 運営全体の管理は村で担う一方で、運行や車両整備等については事業者へ委託し、村と事業者が一体となって自家用有償旅客運送に取り組む体制を構築する。

事業⑤ 地域交通のマネジメント体制の構築

- 自家用有償旅客運送の説明会や事業⑧「デジタルきっぷの作成」、事業⑨「BRT等の交通資源を活用した新商品の開発」等に関するワークショップを開催し、事業者、住民がプレイヤーの立場としても積極的に公共交通に関わることができる環境を整備する。

基本方針Ⅲ デジタル化の機運醸成に向けた新しい地域交通のしくみづくり

事業⑥ AI活用型オンデマンドシステムの導入

- 村内交通（乗合タクシー）の運行管理（予約受付、配車、ルート決定、実績管理等）を行うAI活用型オンデマンドシステム^{※2}の導入を検討する。
- ※2 AI活用型オンデマンドシステムとは…複数の利用者が乗り合わせる乗合タクシーにおいて、自動で最適な配車時間やルート等を決定し、運行管理を行うシステム。

事業⑦ デジタルサイネージによる交通情報、観光情報の発信

- 道の駅やBRT駅舎等の拠点施設にデジタルサイネージ^{※3}を設置し、交通情報や観光情報の発信を行う。近隣市自治体との連携した交通情報、観光情報の発信を行い、BRT沿線地域全体で観光周遊の促進を目指す。
 - 情報発信拠点としての機能向上のため、BRT駅舎の改築及び駅舎周辺の整備を検討する。
- ※3 デジタルサイネージとは…ディスプレイやプロジェクター等の装置を用いて様々な情報を発信する電子的な看板。

事業⑧ デジタルきっぷの作成

- 交通と観光のコンテンツを組み合わせたデジタルきっぷ^{※4}を作成する。
 - 村内の事業者、組合、住民等と連携しながら、地域の資源を活かしたデジタルきっぷを作成する。また、BRTの開業を踏まえ、近隣自治体との広域連携による企画・プロモーションを進める。
- ※4 デジタルきっぷとは…スマートフォン等で購入、利用できる電子的なきっぷ。交通機関の乗車券としてだけでなく、観光施設の入場料割引券や飲食店のクーポンとして利用できるものもある。

デジタルきっぷの事例



（西鉄乗車券と川下り乗船券がセットとなったデジタルきっぷ）

基本方針Ⅳ 地域のにぎわい創出につながるBRTの活用と公共交通の取組み推進

事業⑨ BRT等の交通資源を活用した新商品の開発

- BRTを本村の新たな観光資源として捉え、新しいサービスや新商品の開発を行う。
- 村内の事業者、組合、住民等と連携しながら、地域の資源を活かした商品開発を推進する。また、鉄道愛好家のような特定の層にターゲットを絞り、設定したターゲットに訴求する形で企画・プロモーションを行う。

コラボ商品の事例



（西九州新幹線×玄海酒造のプレミアムボトル）

事業⑩ 貨客混載の導入検討

- 村内路線（乗合タクシー）を活用し、人だけでなく農産物等も運ぶ貨客混載を実施する。

発行：東峰村ふるさと推進課